

第21回和漢医薬学会大会

日時 平成16年 8月21—22日

場所 富山国際会議場

後援 富山県, 富山市, 21世紀 COE プログラム推進委員会, 財団法人 富山県高等教育振興財団, 国立大学法人 富山医科薬科大学・和漢薬研究所

大会テーマ 『自然の摂理と天然の恵みを巧みに利用した全人医療の確立をめざして』

和漢医薬学会大会は2年に一度富山に巡ってくる慣習になっており, 今回は服部征雄が大会長を仰せつかった。伝統医学の持つ優れた人間味を取りあげ, 上記のテーマを設定した。シンポジウムは「自然の摂理」, 「天然の恵み」, 「全人医療」のキーワードで組み立ててみた。また, 多くの学会が肥大化し, 一般発表がポスター形式に移行せざるを得ない状況下, 若手発表者に口頭発表の機会をもっと与えるべきとの判断から本大会では口頭発表を復活し, 口頭, ポスター両発表形式で35歳以下の若手優秀発表者を表彰することにした。口頭の場合は受け持たれた二人の座長に優秀発表者を推薦してもらい, ポスター発表の場合は和漢薬研究所を中心とした助手以上のスタッフに審査をお願いした。大会の懇親会の席上, 優秀発表者の授賞式を行う関係上, 優秀発表賞にエントリーを希望する方々の発表を初日に設定した。賞状には大会のポスターに使われた立山連峰が入ったカラフルなデザインが採用された。また, 副賞には富山への交通費程度の金一封が手渡された。口頭発表から4人, ポスター発表から5人が選ばれたが, 偏ることの無い妥当な選出であったと思う。総演題数122(口頭発表44; ポスター発表78)の内, 優秀賞にエントリーした数は51であり42%が若手発表者であったことになる。

その他, オール・ジャパン コンソーシアム形成を取りあげ和漢薬研究のネットワークに関して多くの先生方から提案してもらった。特別講演は天外伺朗氏, 岸本忠三元大阪大学総長にお願いした。天外氏はソニーのロボット分野の最高責任者であるが, 医療分野にも造詣が深くこの種の学会としては極めて異例な特別講演者であり, 市民の参加も多かった。

市民講座は同じ会場で, 食と健康を取りあげたが大変好評であった。大会参加者総数は517名であり富山開催としてはますますの盛況であったと考えている。以下, 本大会の主なプログラムを列記する。

特別講演Ⅰ: ホロトピック・センター構想	天外 伺朗
特別講演Ⅱ: IL-6; 分子生物学と医学	岸本 忠三
大会長講演: 最近のヒト腸内細菌による代謝研究	服部 征雄
学会賞受賞講演: 基礎研究による和漢薬の薬効解明	山田 陽城
学会奨励賞受賞講演:	
肝機能に対する小柴胡湯の影響に関する薬剤疫学的研究	赤瀬 朋秀
新たな甘草資源の開発(栽培甘草の実用化) <i>Glycyrrhiza uralensis</i> 根の栽培研究と薬材規格と薬剤特性評価	山本 豊
和漢薬治療中の関節リュウマチ患者221名の上部消化管内視鏡所見の検討	酒井 伸也
シンポジウムⅠ: 和漢薬資源の今昔 -温故知新-	
シンポジウムⅡ: オール・ジャパン コンソーシアム形成について	
シンポジウムⅢ: 自然治癒力を考える	
シンポジウムⅣ: 糖尿病性腎症治療戦略 -基礎から臨床まで-	
ランチョンセミナーⅠ: Prokinetics (消化管機能改善) としての六君子湯の位置付け	
ランチョンセミナーⅡ: 麻黄附子細辛湯の構成生薬について	
市民公開講座 テーマ: 食と健康	
抗酸化食品による生活習慣病予防	大澤 俊彦
フリーラジカル・活性酸素と疾患	吉川 敏一

(文責 服部 征雄)